

和地ひとみレポート No.307



平成31年度施政方針演説と代表質問

東大和市をより良くする“強い思い”は

■施政方針演説

…2月22日から開催されている平成31年第1回市議会定例会の初日、尾崎市長による平成31年度施政方針演説が行われました。毎年、最初に開かれる市議会定例会では、4月からスタートする新しい年度の市政運営の基本方針や主な施策の方向性を示す施政方針演説が行われます。今年も、約1時間程度の施政方針演説が本会議で行われ、内閣府の景気動向、国の予算案、東京都の予算案など東大和市を取り巻く概況を市がどう捉えているかということから始まり、31年度の重要施策と主な取組み、新年度の予算のポイントなどが述べられました。施政方針演説の全文は、市のホームページに既に掲載されているので閲覧できます。

【平成31年度の重要施策5点】

平成30年度の重要施策と同じ項目だが、その順番が変化していました。順番が変化したことは優先順位が多少変化したと捉えられます。()内が平成30年度の施政方針での順番です。

第1の重要施策：子ども・子育て支援施策の充実 (1)

第2の重要施策：教育施策の充実 (2)

第3の重要施策：健康・福祉施策の充実 (4)

第4の重要施策：環境施策の充実 (5)

第5の重要施策：市の魅力を高める施策の充実 (3)

■代表質問

…市長が表明した施政方針に対し、市議会は代表質問を行います。代表質問はその名の通り“各会派の代表”（ならびに無所属議員は各議員）が行えます。

…“行えます”としたのは、“絶対行わなければならない質問”ではないからですが、来年度1年間の施策の方向性や方針に対する質問は、とても重要なもの。基本的には全会派が質問を行います。無所属議員については2名のうち1名のみが質問を行っただけでした。

…また、代表質問には制限された持ち時間があります。各会派の所属人数×10分が持ち時間となり、無所属議員は1名单独で行うので10分です。この限られた時間の中で、質問と答弁を収めなければならないので、質問内容も吟味しなければなりません。また、代表質問は、一般質問のように、答弁に対して再度確かめる再質問はできません。よって、答弁の内容に疑問があったり、満足できなくてもさらに追及する機会はないルールとなっています。

■気になるポイントは

…前述のとおり、代表質問は「平成31年度施政方針演説」に対する質問のため、各会派などの質問項目は被る部分も多くあります。この被る項目は、言い換えれば『皆が気になった点』ということ。今回の代表質問でも以下の項目に対し複数の会派が質問で取り上げました。

【複数の会派が質問をした項目】

- ◆尾崎市政の2期8年の実績と総括を市長自身がどう捉えているか。強い思いで実現したことは何か。また課題は何か。
- ◆新年度予算編成のポイントと効率的、かつ効果的な財政運営について。
- ◆「(仮称)子ども・子育て憲章」制定に向けた取組みについて。
- ◆社会福祉協議会で実施している「さわやかサービス」を「ファミリー・サポートセンター」としてサービスを拡充する効果について。
- ◆学校の体育館への空調設備の設置について。
- ◆学校のトイレの洋式化について。
- ◆狭山丘陵や多摩湖の魅力の発信の民間企業との連携事業の具体的な内容について。
- ◆受動喫煙防止のための方針について。
- ◆総合福祉センター“は～とふる”の委託会社と市の連携状況について。
- ◆歩道のバリアフリー化の具体的実施内容などについて。
- ◆都市農業の振興について。
- ◆地域防災計画の改定について。
- ◆廃棄物の減量施策について。
- ◆市有地などの活用について。
- ◆清瀬市と連携して実施するシビックプライド醸成のための取組みについて。
- ◆自殺対策計画策定の準備について。
- ◆観光事業について。
- ◆コミュニティ交通について。
- ◆公共施設のあり方について。
- ◆市民自治向上について。
- ◆児童虐待対策について。
- ◆待機児童対策について。
- ◆学童保育、ランドセル来館、放課後子ども教室等について。

(裏面に続く)

- ◆児童館について。
- ◆いじめ対策について。
- ◆図書館について。
- ◆元気ゆうゆうポイントについて。
- ◆3市共同リサイクルセンターについて。
- ◆『まち・ひと・しごと総合戦略』について。
- ◆雨水対策について。
- ◆納税管理業務委託の効果について。

…これら、多くの会派が取り上げた項目には共通点があります。まず、毎年、施政方針演説で同じような内容を語っていても具体的な取組みが不明で、あまり変化(≒効果)が感じられないこと。また、既存の事業で取組みが変更したり強化されたりすることや、課題が感じられること。そして、平成31年度に新たに表明された取組みという点です。

■要望したことが盛り込まれ

…今回の施政方針には、今まで私が一般質問などで取り上げてきたことも盛り込まれていました。例えば、特色ある公園の整備については、花づくりを楽しめる公園の整備に着手すること。また、“日本一子育てしやすいまち”の市民(大人も子どもも)と行政が共に重要な方針や方向性を共有できるようにする“(仮称)子ども・子育て憲章”の制定に向けても着手されます。また、今まできちんとした物がなかったハザードマップの作成も行うとのこと。もちろん、保育園、学童保育などの待機児童対策もさらに強化して取り組むとともに、子育て支援センター、ファミリー・サポートセンターなど子育て支援施策も充実させることが示されました。

…また、今までは小学校1校に試験的に配置していた市雇用の教員の事務的補助を行うスクールサポートスタッフも全小・中学校に配置し、教員の負担を軽減し、より子ども達に向き合う時間を取れる体制を整えるようです。

…予算概要について取上げたこのレポートでも述べましたが、新規事業や強化する既存の事業については、国や都からの補助金＝国や都の施策をもとに東大和市が実施するものもありますが、東大和市が自主財源で取り組むものは、厳しい財政状況の中でも市が「やらなければ！」と思うものです。それらについては、効率や効果をより厳しく追及する必要があります。代表質問では、前述のとおり制限時間内で、質問に対し1度の答弁しかないので、その答弁では予想している効果や取組みの詳細が不明なものもありました。しかし、すべての取組みには予算が伴いますので、今後、開かれる予算特別委員会で、これらの答弁の不足分を補うべく質疑で取り上げたいと思います。

■毎年思うことは…

…施政方針の内容はとてもボリュームのあるもの。演説時間も約1時間、文字数も14,000文字以上で、市政全般を網羅した内容です。施政方針は“市長”の方針を示すというものですが、実際には、様々な取組み内容を述べるにあたり、市の職員が作成しているだろうことは明らか。私は、毎年、施政方針の内容を前年度のものと同じと見比べて、変化した部分を確認するのですが、毎年、前年の内容をもとに作成していることが分かります。毎年、同じような内容になることは理解でき、問題視しませんが、このようなことが気になる根本的な理由は「市長が自分の言葉で語っていない」「市長の思いが分からない」ように感じるから。

…職員が作った原稿をとにかく読み上げるといった様子に見えるのは私だけではないようです。他の自治体の市長などは、職員が作った原稿に自分の来年度に向けての姿勢や解決したい課題、力を入れて成し遂げたいことなどを、ご自身の言葉で入れている、もしくは原稿なしで語っている方もいます。

…それぞれの分野の事業を実際に執り行うのは市の職員。よって、極端なことを言えば、誰が市長でも一定の取組みは実現します。それを更に良い結果にできる組織にしたり、その先の中長期的な視点の方向性を見つめてより良い方向にリードしていくのがトップたる市長のミッションではないかと思えます。

…今回の施政方針演説でもそのような尾崎市長の姿勢や思いがあまり感じられなかったことは否めません。尾崎市長はおそらくそのような思いを表現されることがあまり得意ではないだけだと思いたいところですが、前述の多くの会派が取り上げた質問項目で最初に挙げた「尾崎市政の2期8年の実績と総括を市長自身がどう捉えているか。強い思いで実現したことは何か。また課題は何か。」という質問が出るのも、尾崎市長の思いを知りたいと多くの議員が思っている表れだと思えました。

【市長就任後の2期8年の成果と評価についての尾崎市長の答弁】

平成23年度に行った所信表明において、私は夢のあるまちづくりを目指し「住み良い、活気のあるまちづくり」、「環境に優しいまちづくり」、「福祉の行き渡ったまちづくり」などの6つの施策の柱を述べ、関係する事業を積極的に推進してきた。

特に平成27年度からは「日本一子育てしやすいまちづくり」を重要施策に加え、子ども達や子育て世代を応援する施策を推進してきた。その結果、民間機関の「共働き世帯にとって子育てしやすい街」に関する調査では、全国でも上位に位置し、合計特殊出生率については平成29年に都内区市部で第1位になった。この8年間の評価としては少子高齢化や人口減少が進展し、厳しい財政状況が続く中、将来に渡って活力ある東大和市を維持していくための礎を築くことができたものと考えている。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前配布するレポートは毎回、最新号です。

【プロフィール】「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思えます。」



1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山あいの小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。『学校』の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートナーネットワーク(※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換)に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。月刊誌『日経 WOMAN』のベンチャー企業で活躍する女性特集で取り上げられる。その後、人材開発部長を拝命。『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報、社員研修、組織活性化などに従事。2011年4月、初当選。現在2期目。顔の見える議員として、日々奮闘中。

東大和市 市議会議員
和地 ひとみ

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP: <http://www.wachi1103.jp>
 ☒ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546
 〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102